

「第2回物部川フォーラム」を開催しました！

日時：令和6年1月31日(水) 午前9時～12時

場所：香南市のいちふれあいセンター サンホール

主催：物部川流域ふるさと交流推進協議会（南国市・香南市・香美市）

共催：アクア・リプル・ネットワーク

後援：物部川21世紀の森と水の会、物部川清流保全推進協議会

協賛：物部川清流保全パートナーズ企業

（(株)あさの、(株)伊藤園、(株)土佐山田ショッピングセンター）

参加者：物部川流域市民・活動団体、流域外関係者 約150人

4年振り2回目となる本フォーラムでは「プラスチックごみ問題」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションの2部構成で、地球規模で海洋で何が起きているのかを知り、流域での自分たちの暮らしを見つめ、問題解決のために何ができるのかを考えました。

○基調講演「海からプラスチックごみ問題」（講師：高知県立大学名誉教授一色健司氏）

基調講演では、海洋科学分野の最近の研究で分かってきた“プラごみ問題”について、データの紹介も交えて詳しくお話いただき、学びを深めました。

2020年までに海に流出したプラスチックの総重量は5億トンで、このまま流出し続けると20年後には今の20倍、2050年には魚の総重量を超える量となること、プラスチックの生物への影響は様々あり食物連鎖で将来的には人体にも影響が出てくる可能性があること、世界の海を見ると海洋に排出されるプラごみの中で十分に管理されずに排出されているのは圧倒的に東アジアや東南アジアが多いこと、河川からの流入量200万トンのうち90%がアジアの河川からのものであること、原因として不適切な廃棄物管理や意図的なポイ捨てなどがあり、アジアのプラごみは黒潮に乗って日本近海を北上するなど世界的に見ても日本周辺に集まっていること、特に黒潮の渦の中心に“マイクロプラスチック”が多いとの話がありました。

海面を浮遊している大きなプラスチックごみは回収できる可能性がありますが、マイクロプラスチックや海中、海底のプラスチックごみの回収は困難で、分解されないまま溜まり続けているそうです。

県内の高知港海岸漂着ごみ組成調査による漂着物の分類でも、人が起源となる人工物、プラスチック容器などが多い結果となっており、海洋プラスチック汚染問題の解決に向けた取組が急務となっています。

基調講演の最後には、問題の解決のために人や社会が選択できる行動について、説明いただきました。会場では皆、自分が出来る行動は何だろうと考えながら、パネルディスカッションに移りました。

○パネルディスカッション「テーマ：暮らしとプラスチックごみ」

パネルディスカッションでは、基調講演内容及び12月に流域団体が実施したプラごみ調査結果資料「物部川流域のプラスチックごみを考える」をもとに、これらの問題を暮らしに結びつけて考える討論が行われました。

コストや利便性からプラスチックの存在があまりにも暮らしに溶け込んでいることに気づかされ、途方に暮れつつも、自分自身や流域や社会でそれぞれ何ができるかについて、

意見が交わされました。

香美市こどもエコクラブなどの啓発活動も紹介もされ、子ども達の感性や視点の鋭さ、学びの深さを私たち大人も見習うことが出来たら、より良い社会になっていけるのにと感じました。

そして、基調講演でも触れられていましたが、利用の削減や適切な管理と処分の徹底、リサイクル推進などは一人一人が日々の生活の中で意識し行動すること、河岸清掃などプラごみの回収は個人や一つの団体でも出来るが地域や流域全体の活動として行政も巻き込む形で取り組んでいくこと、社会の仕組みを見直し排出源のコントロールや易分解性プラスチックへの置き換え、製品のリデザインなどを進める必要があることなどを皆で確認しました。

○試食タイム

会場の外で、まぼろしの銘茶物部町の大抜茶の試飲と香美市林業婦人部から鹿肉カレーがふるまわれ、多くの方で賑わいました。

今日学んだことを皆で行動につなげていきましょう！

